



KANAYAMA

金山駅周辺まちづくり計画

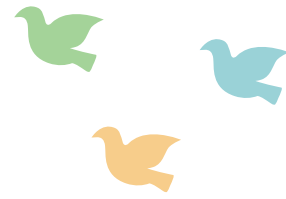
KANAYAMA

金山駅周辺まちづくり計画



令和7年2月 名古屋市

INDEX



- 01 目的** ————— **01**
- 02 現状と課題** ————— **02**
- 1 金山を取り巻く状況
2 金山駅周辺の課題等
- 03 まちづくりの
コンセプト** ————— **07**
- 04 まちづくりの方針** — **08**
- 1 まちづくりの方向性
2 実現に向けた進め方
3 主な配慮すべき視点
- 05 取り組み** ————— **14**
- 1 アスナル金山エリアの再整備
2 古沢公園・市民会館エリアの再整備
3 駅南口エリアの利活用
4 金山総合駅連絡通路橋の利活用
5 道路空間の再編や利活用
6 ウォーカブル界隈の形成
7 エリアマネジメントの展開
8 文化芸術の施策展開
9 エリア間連携
- 06 まちの将来イメージ** ————— **22**
- 文化芸術あふれる
ウォーカブルなまちの形成

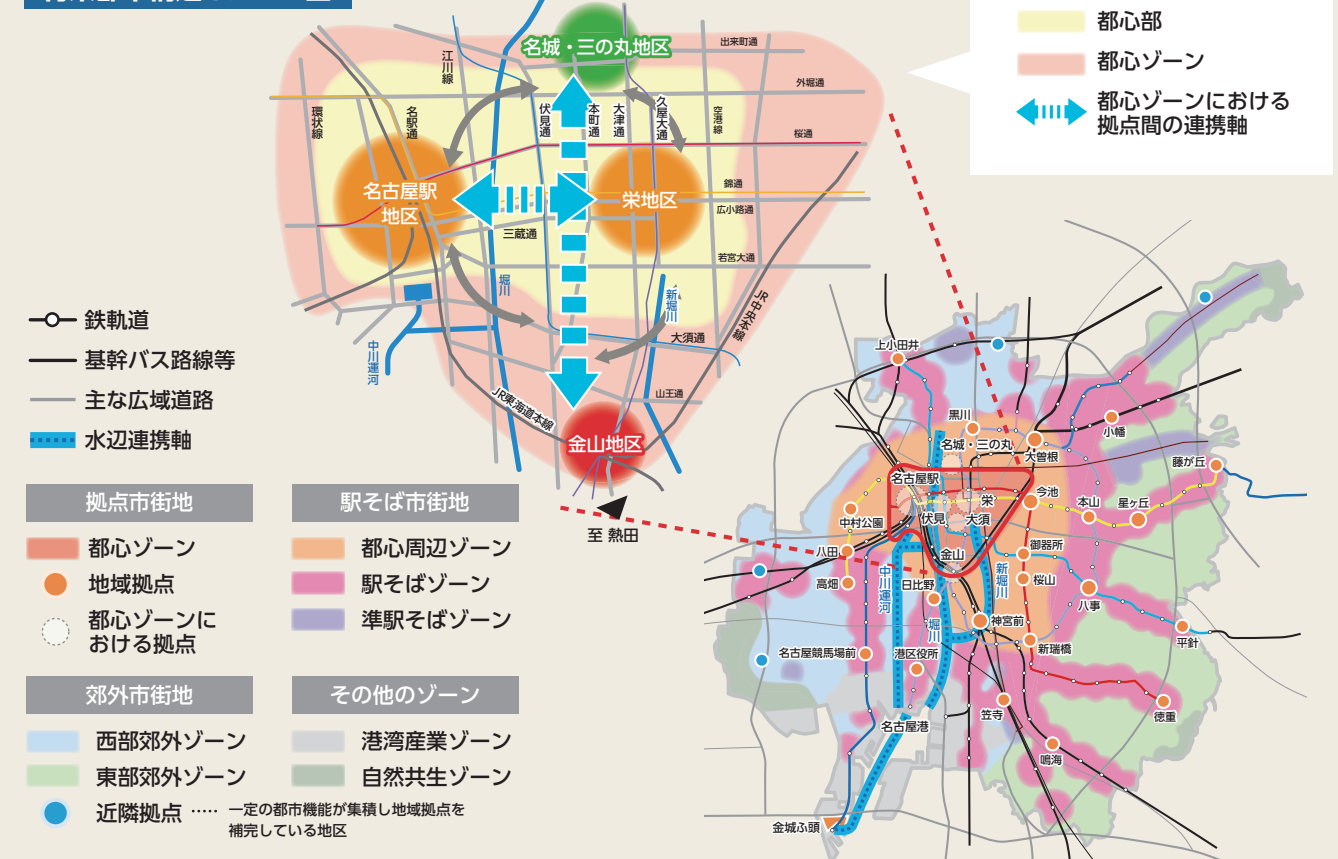


01 目的

本市における都心ゾーンについては、名古屋駅と栄が連携した「横軸のまちづくり」を更に活性化させていくとともに、今後は、名古屋の歴史や文化、水辺空間等の地域資源を活用した、名古屋城から金山・熱田、名古屋港・金城ふ頭などの拠点を結ぶ「縦軸のまちづくり」を更に推進し、拠点間の連携や回遊性を高めることにより、市内各地へにぎわいを拡大させていくことが求められています。

このため、地域住民、地元団体、民間企業、行政等で共有できる金山のまちの将来像を示し、官民協働による取り組みにより、名古屋駅・栄とは異なる金山ならではの魅力をより一層高めることを目的として本計画を策定します。

将来都市構造イメージ図



本計画は、名古屋市総合計画2028を上位計画とし、金山駅周辺まちづくり構想（平成29年3月）により取りまとめた経緯・現状等を踏まえつつ、リニア開業により交流人口が増加する時期を見据え、市有地を核とした事業や取り組みをより一層推進していくため、これまで検討を進めてきた金山駅周辺におけるまちづくりの具体的な計画として取りまとめたものです。

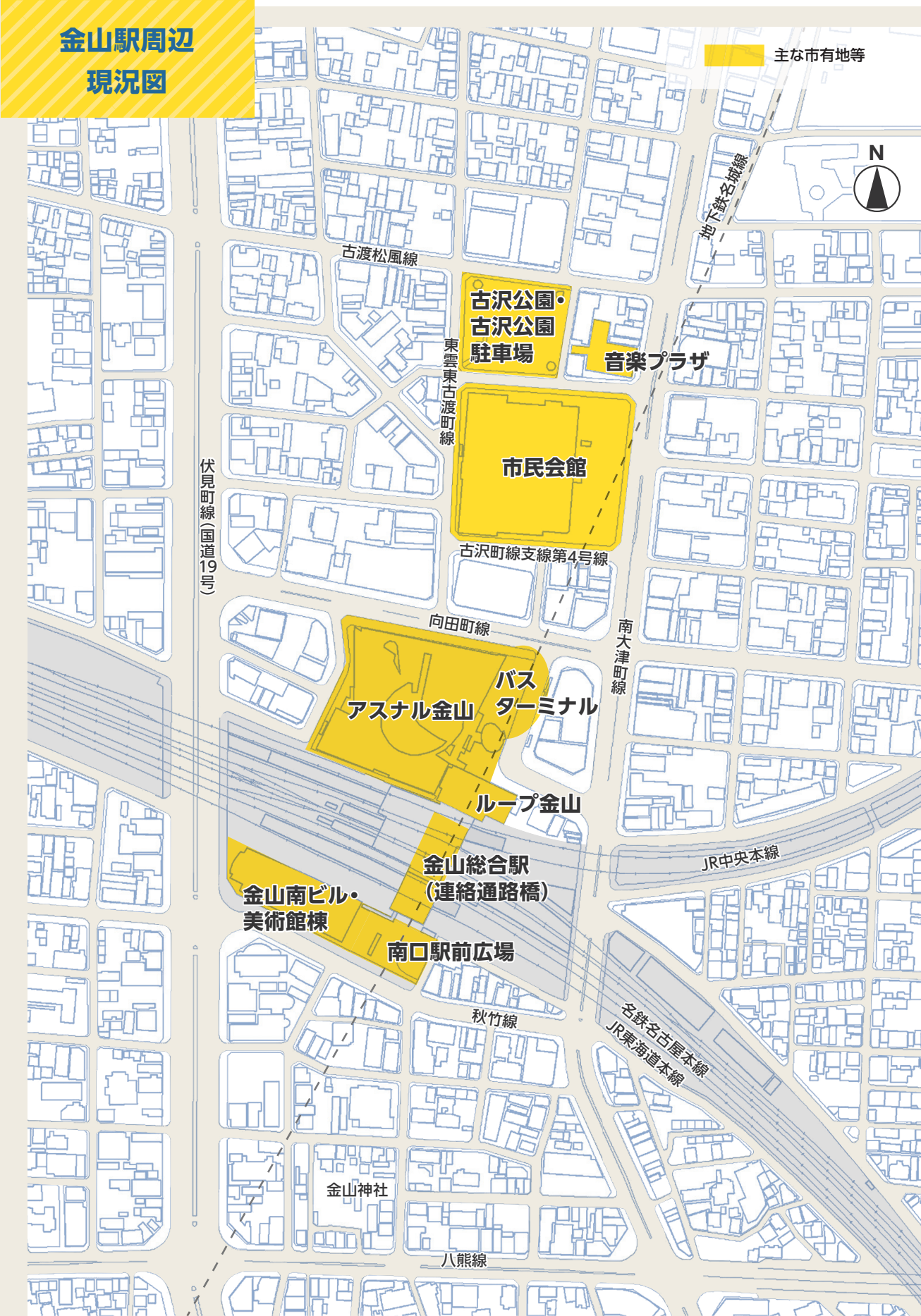
02 現状と課題

1 金山を取り巻く状況

市内有数の交通結節点	金山総合駅は市内有数の交通結節点であるとともに、中部国際空港に直結しており、乗降客数は中部圏第2位の48万人／日※に上ります。 ※ 令和元年の調査結果より
多核的な拠点の形成	三大都市圏の中核として名古屋を発展させていくため、金山の拠点性をさらに強化し、名古屋駅・栄とあわせて多核的な拠点の形成を図る必要があります。
アジア・アジパラ競技大会の開催	2026年にアジア・アジパラ競技大会が愛知・名古屋で開催されるため、交通結節点である金山には数多くの来訪者が見込まれます。
リニア中央新幹線の開業	三大都市圏が一体化し、世界最大の人口を有する巨大交流圏が誕生し、産業や人々の生活において大きな変化が想定されます。

<金山駅周辺における開発の流れ>

昭和47年	市の人口200万人突破を記念し、名古屋市民会館が開館
平成元年	金山総合駅が開業し、市の南の玄関口としての拠点性が強化
平成11年	金山南ビルが開業し、あわせて南口駅前広場を整備
平成17年	土地の暫定活用を図るため、アスナル金山が開業



市有地等の状況

■ アスナル金山

- ・界隈性を有する商業施設として、地域のにぎわい創出に貢献しています。
- ・オープンスペース「明日なる!広場」は、ステージを中心とした多数のイベント開催等によりにぎわいづくりに寄与しています。
- ・周辺街区への波及効果は、一定の範囲に留まっており、来訪者の回遊性の向上が必要です。
- ・令和10年2月の事業用定期借地の期間終了を見据え、本格整備により地域のにぎわいをより一層高めることが求められています。

■ 市民会館

- ・文化芸術や創造によるにぎわい形成に大きく寄与しています。
- ・開館から約50年が経過し、老朽化やバリアフリー等への対応のため、再整備が必要となっています。
- ・市民会館の再整備に向け、令和4年2月に「名古屋市新たな劇場の基本構想」を策定しました。

■ 古沢公園

- ・近隣の子どもたちの遊び場や来訪者の憩いの場に加え、お祭り等のイベントにも利用されるなど、地域に親しまれています。

■ 駅南口エリア

- ・南口駅前広場では地域団体のほか、各種団体による様々なイベントが催されています。
- ・金山南ビル美術館棟は平成30年10月のポストン美術館閉館後、短期貸付による暫定利用を実施しており、企画展とアスナル金山との連携イベントも実施されるなど、まちのにぎわいに貢献しています。

■ 金山総合駅連絡通路橋

- ・交通結節点としての乗換利便性の向上が図られているとともに、催事スペースでは、マルシェや物産展が日々開催されるなど、にぎわいづくりにも寄与しています。
- ・駅南北地区をつなぐ、来訪者の回遊の起点となることが求められています。



明日なる!広場でのステージイベント



市民会館の老朽化事例(漏水)

【出典】名古屋市 新たな劇場の基本構想



古沢公園



駅南口エリアでの地域団体が主催するイベント



催事スペースでの物産展

03 まちづくりのコンセプト

人・文化・芸術とともに育つまち

～ にぎわいと感性あふれる交流創造の場づくり ～

昭和47年に市民会館が開館して以降、文化芸術を鑑賞する機会を得られるまちとして多くの人々が来訪してきました。更に、平成9年には音楽の練習場やサロンを備えた音楽プラザ、平成11年には金山南ビル・名古屋ポストン美術館が開館、平成17年に開業したアスナル金山においても「明日なる!広場」で多くの音楽等イベントが開かれるなど、文化芸術に触れられる施設が集積し、にぎわい創出に大きく寄与してきました。

近年、人々の価値観が「モノ」からこころの安らぎや活力を増大させる「こころの豊かさ」を求めるように変化している中で、快適で充実した生活を創出する一つの要素として、文化芸術の役割の重要度がより一層増しています。

金山駅周辺地域の再整備にあたっては、多様な文化芸術に触れられる環境を創出し、人々に楽しさや感

動、安らぎや喜び等、こころの豊かさが感じられ、誰もが希望を持てるまちづくりに取り組みます。

さらに、市内有数の交通結節点という地理的なポテンシャルを十分に活用するとともに、駅周辺の市有地や道路・オープンスペース等のパブリックスペースを有効活用したウォークアブルなまちづくりを進めることにより、これまで培われてきたアスナル金山の界隈性やにぎわいをまち全体に継承・発展させ、名古屋駅や栄など他の地域にない金山の魅力向上を目指します。

金山に来れば、誰もが様々な体験や活動ができる場所や空間があり、“ここに来てみてよかった”、“もっとここにいたい”、“また来たい”と思える『夢と希望の聖地』として、人・文化・芸術とともにまちを育てていく想いを込めています。

